



龍に婿入り・二

攻め



俺を孕ませろ



受け



俺以外とは
シてほしくない…



りょうた
亮太

村で暮らしていた青年。
幼い頃山賊によって両親を亡くし、
村長に引き取られた。
物怖じせず、気さく。

ユウロン
憂瓏

村長の夢枕に現れ、
たびたび助言をする龍神。
名前は大陸にいた頃の名残で
元はこの国の龍ではない。
姿は自在に変えることができ、
今は下半身に女性器がある。



村長

厳しくも優しい。
龍神の夢を見れる唯一の人間。

～前回までのあらすじ～

平和な村で暮らしていた亮太は、ある日突然村の守り神である龍神に呼ばれる。
向かった先にいたのは女の下半身を持つ男、憂瓏。

「俺と交尾してこの腹に子種を注げ。それがお前の役割だ」

龍の生贄として食われると思っていた亮太は、童貞を龍神に食われてしまう。
はじめはたじたじだったが、初めて見る女性器や憂瓏の誘惑に抗えず、
風呂場で、畑仕事中に、仕事終わりに…種付けの腰振りが止まらない。

さらに憂瓏に対して独占欲のような感情まで芽生え始める——

龍に婿入り・二

様

ユウロン
憂瓏様！

お逃げください

この国はもう
終わりです

内乱だ！

もう
神はいらない！

これからは
人が支配するのだ！

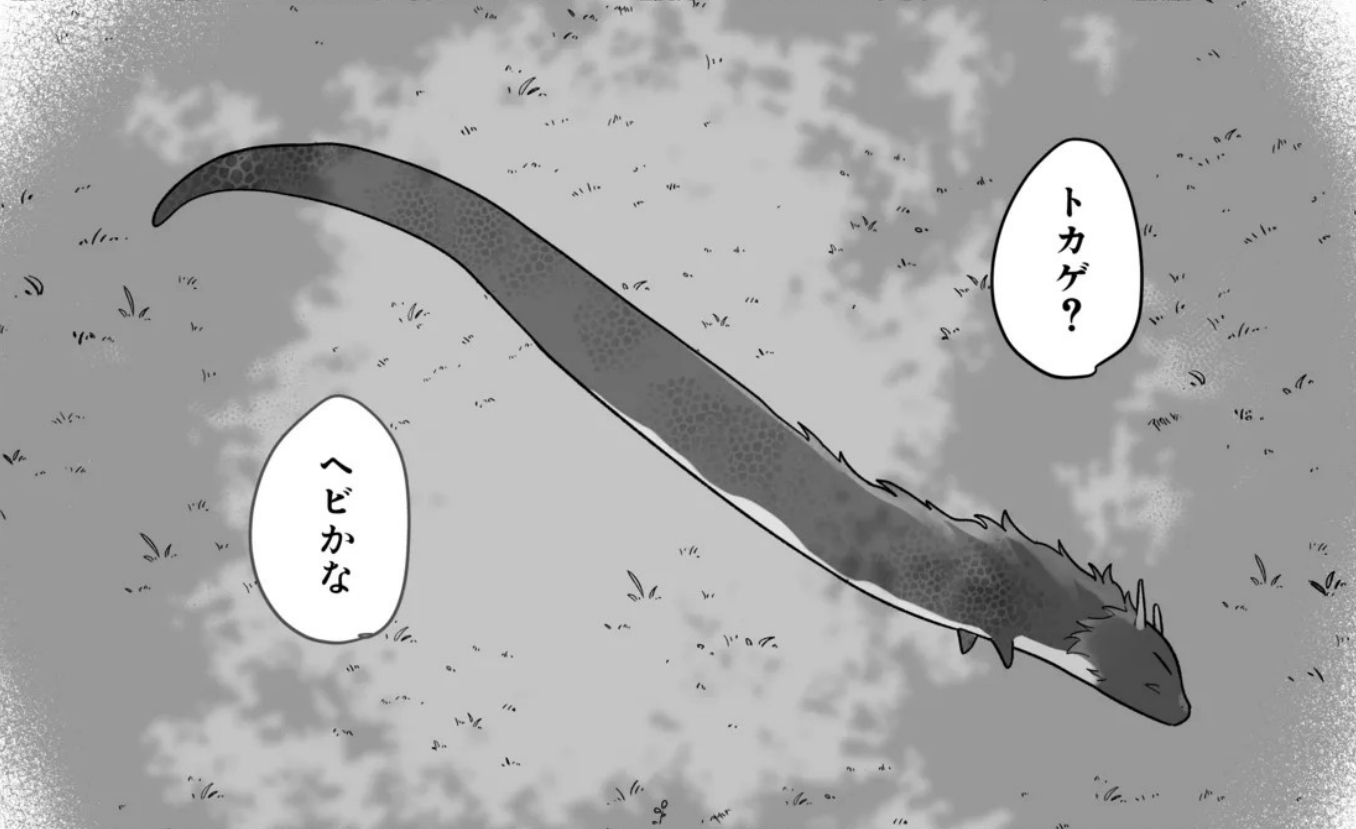
せめて
貴方様だけでも

どうか遠くへ――



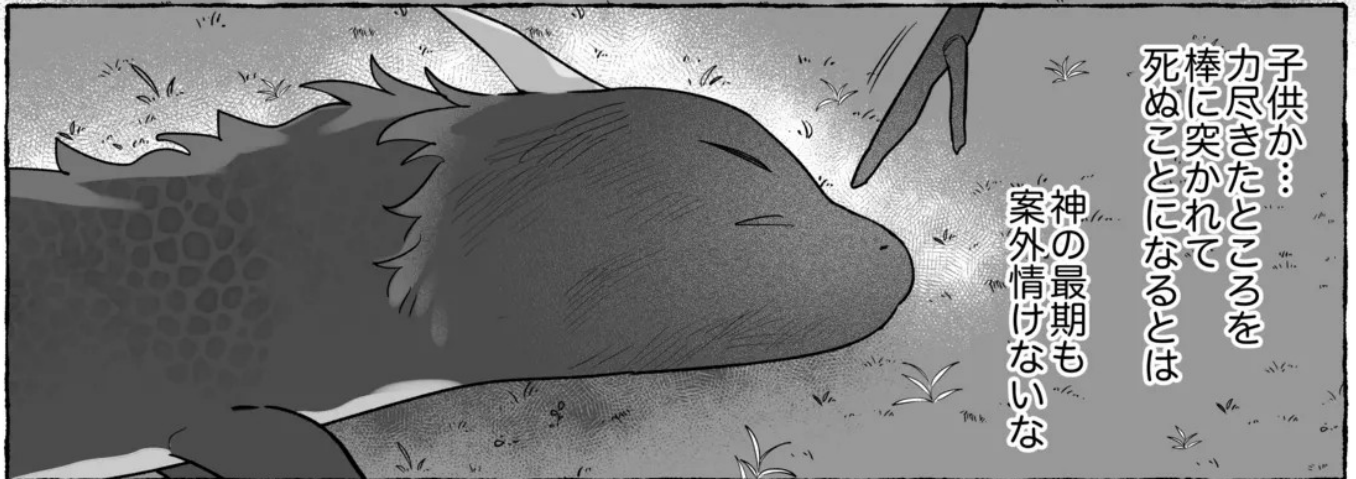


なんだこれ



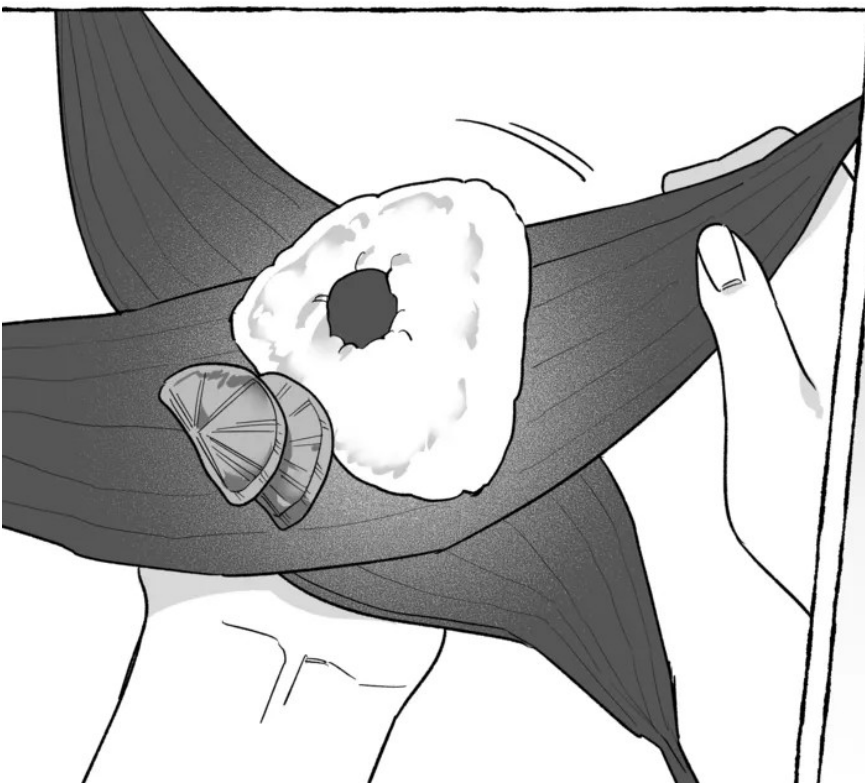
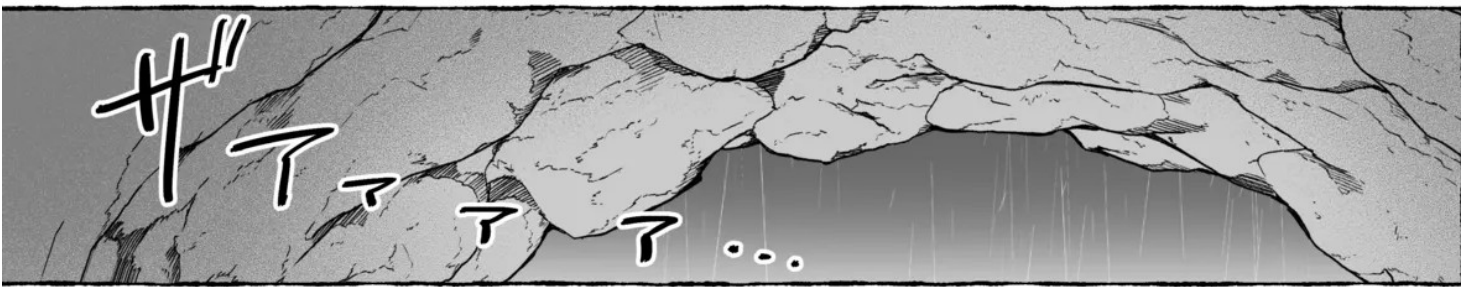
トカゲ？

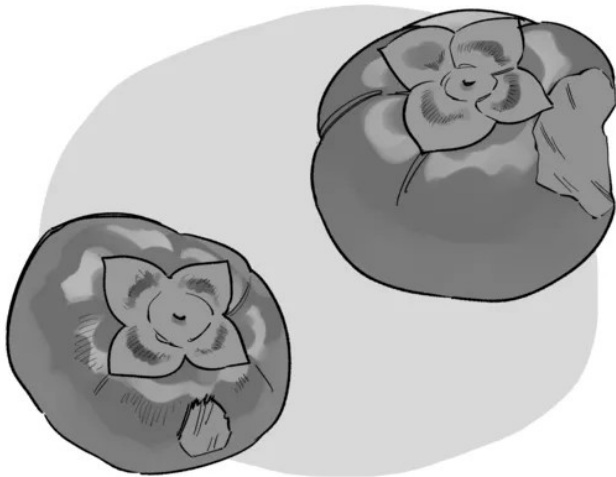
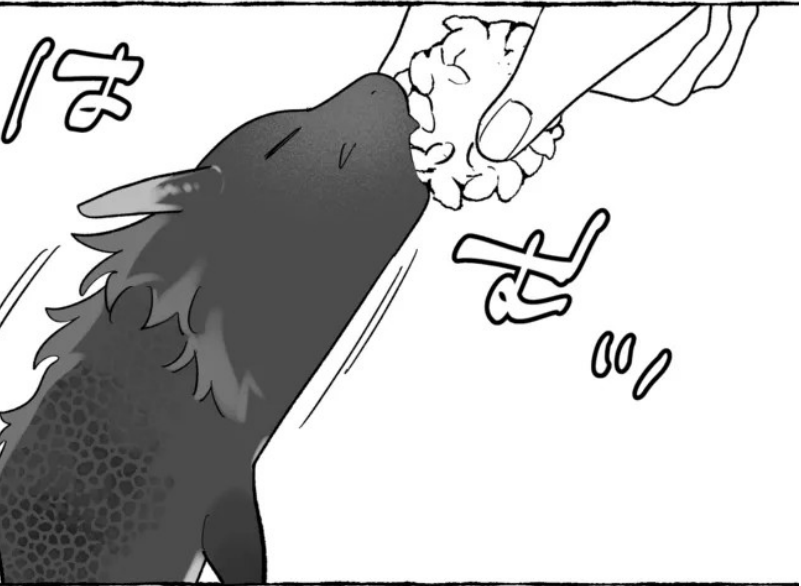
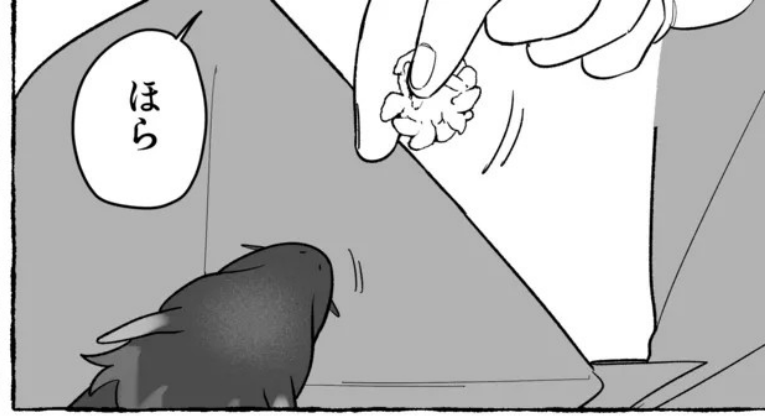
へびかな



子供か…
力尽きたところを
棒に突かれて
死ぬことになるとは

神の最期も
案外情けないな







お前、
父さんと母さんは
いないの？

そういえば、
俺に親があった
記憶すら無いな



俺もね、
一人ぼっちに
なっちゃったんだ

少し前、家族で
山に行った時、
山賊に
襲われたんだって

俺は寝ててよく
覚えてないんだけど

いつの間にか
俺は村に
帰ってて

いつの間にか
父さんと母さんは
いなくなった



家族が
恋しい



じいちゃんとか
ばあちゃんがいるから
ほんとの一人じゃ
ないんだけどね



でも、やっぱり
父さんと母さんが…



それがお前の
願いか

わ、

にゅん



なるほど、
家族



一度尽きかけた
この命

す、

拾い上げたお前に
くれてやるう



え……

ちゅ



俺の身体が
準備できたら
もう一度会おう

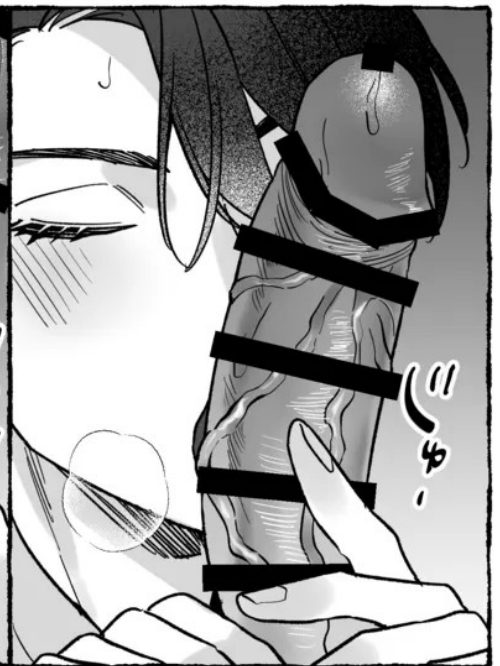
それまで
少しの別れた



あれ……?











っ、もう中は
準備したから

お前の、ち、
ちんぽ、

もう入れろ

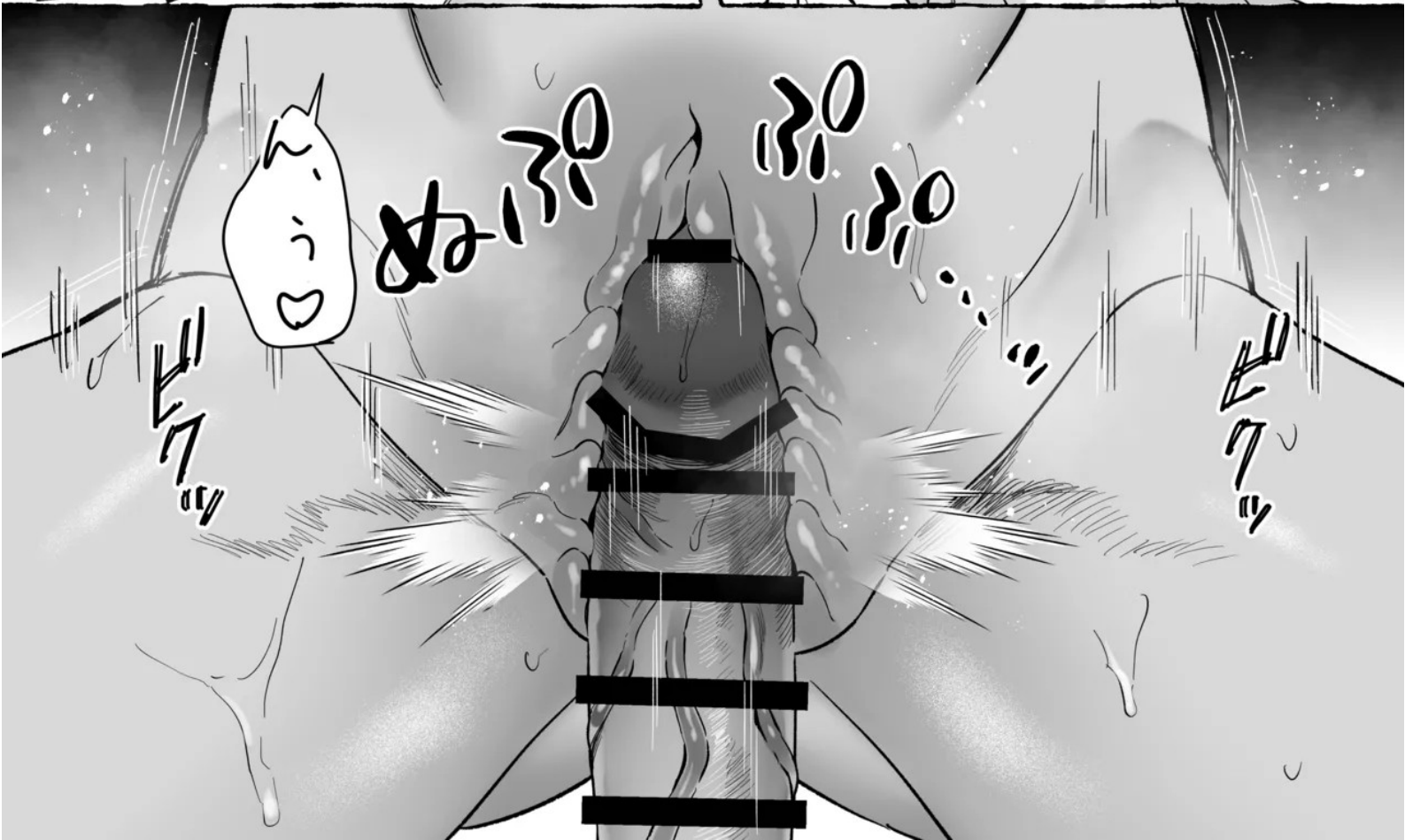
ぐ



っあー...はは

その気にさせるの、
上手くなったよね

ぬさ



ん、う、
♡

ぬさ

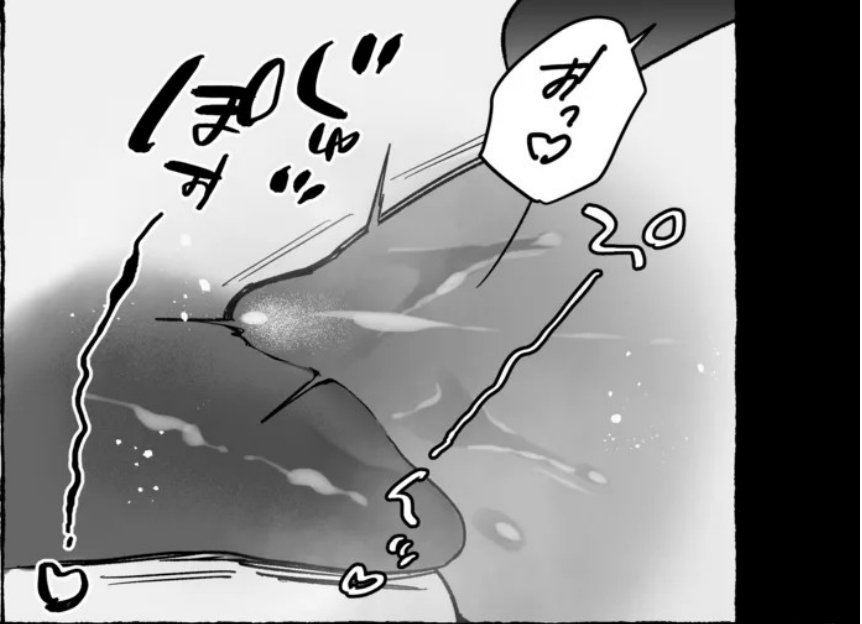
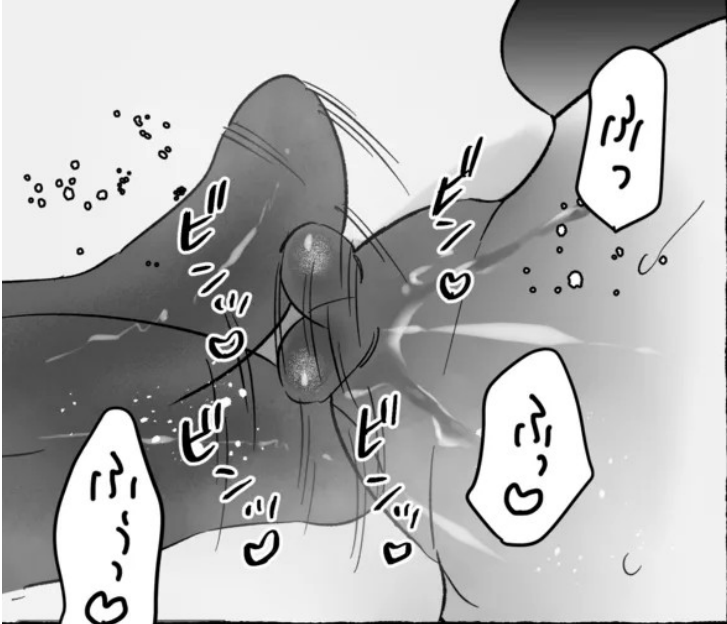
ぬさ

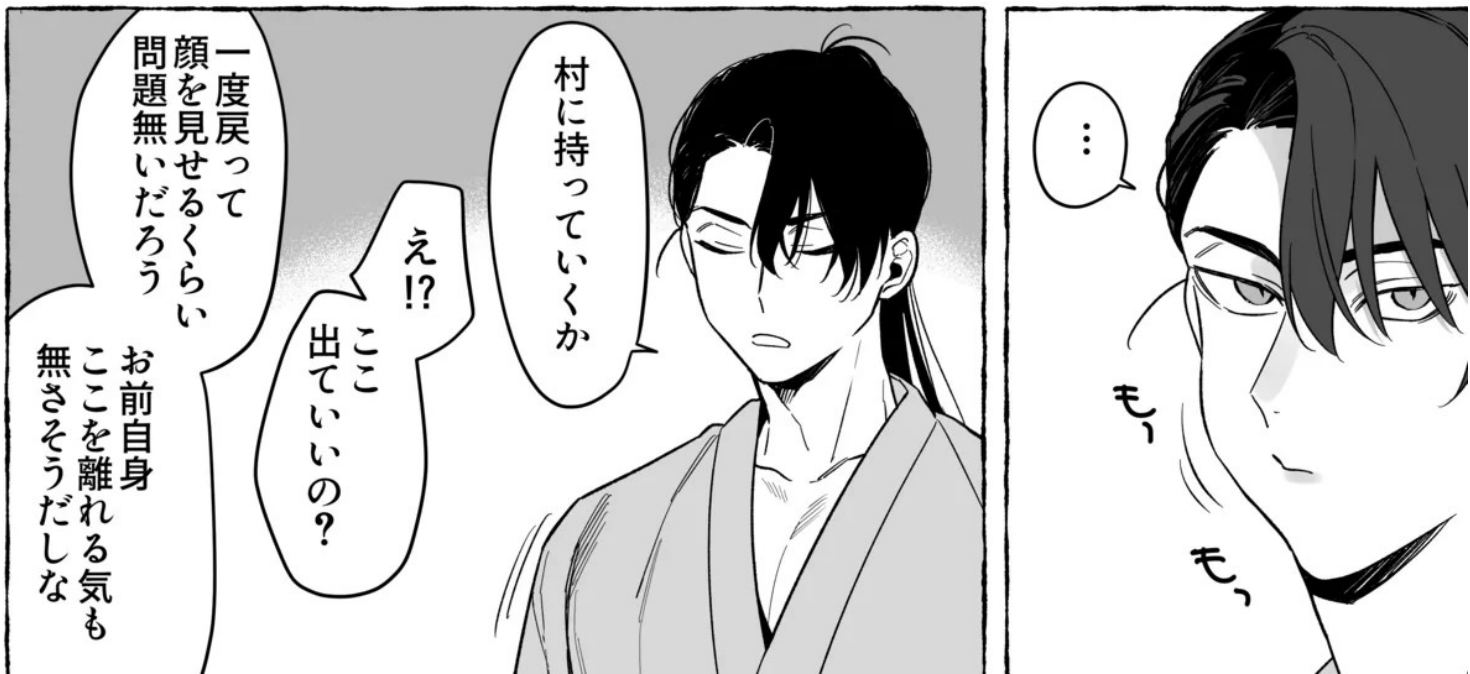
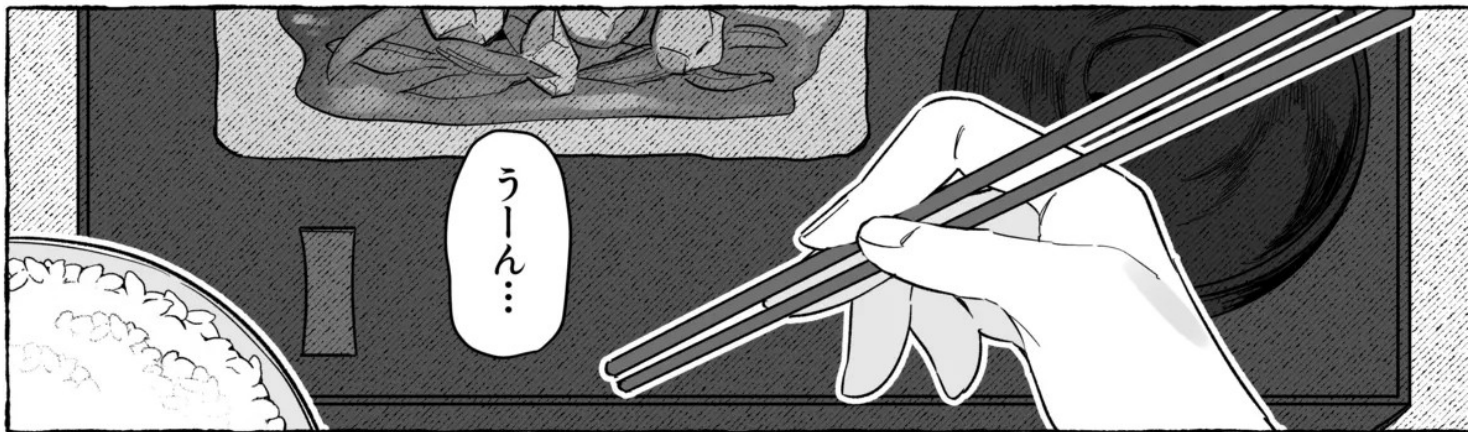
ぐ

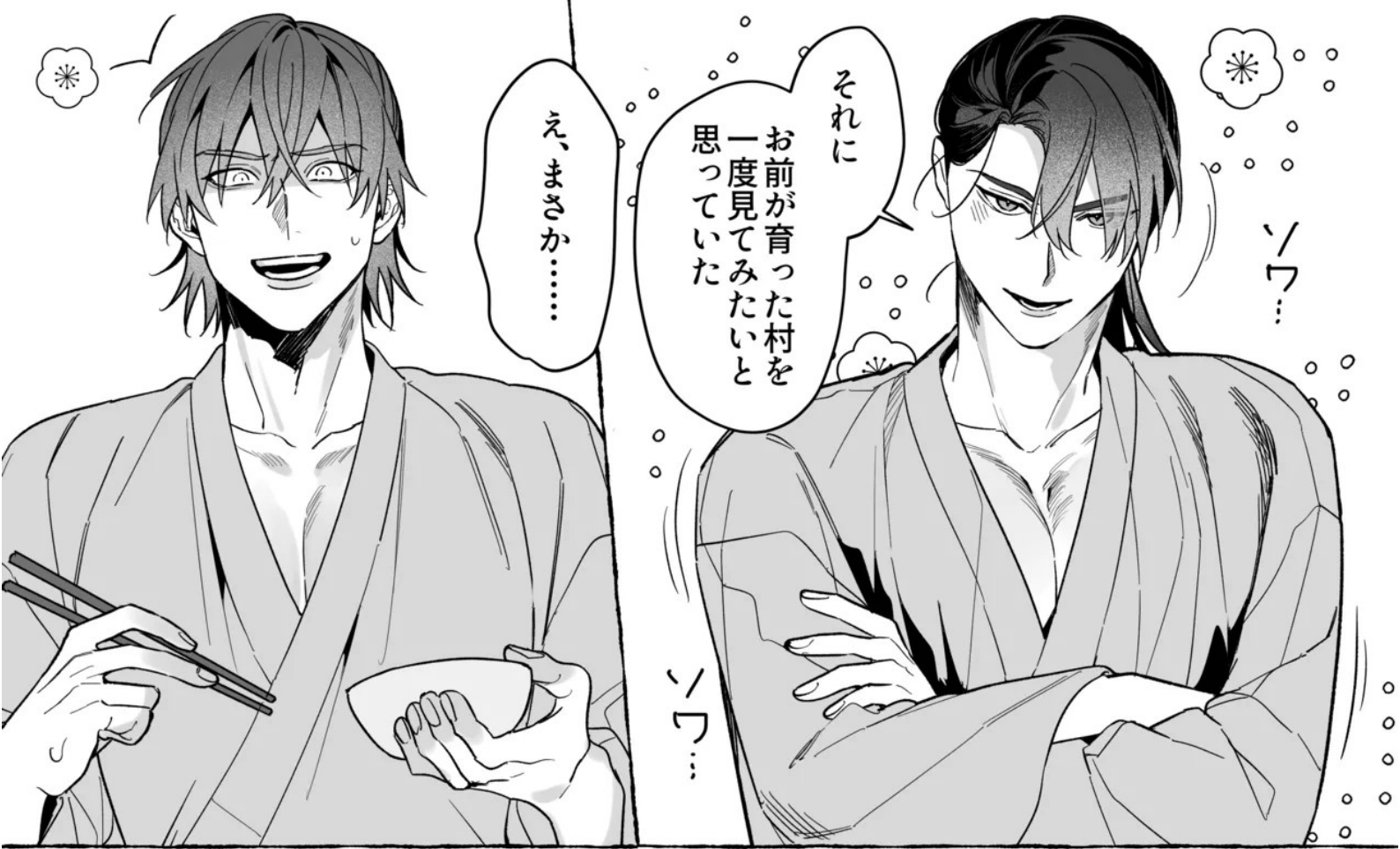
ぐ













亮太ア!?

うん
久しぶり
爺ちゃん

本当に
ついてきた…

ギョウ

ギョウ



便りを
寄越さん
かい!!!

ドゥン

あーっ



っ、この数ヶ月
音沙汰も無く、

俺あてつきり……

ドゥン



いや、今日は
休みを貰った

龍神様のお屋敷で
作った野菜を
村に分けたくて
下りてきたんだ

金五

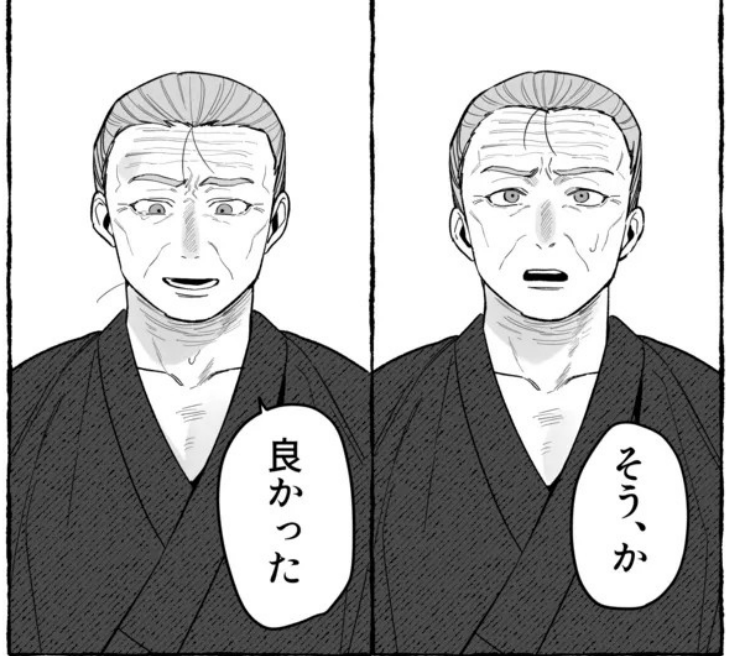
わ、悪かったよ
龍神様のところで
修行してるから
そんな余裕もなくて…

そうだ、龍神様…
その修行とやらは
終わったのか?



無事で
良かった

おかえり



良かった

そう、か



っ、ああ、

ただいま



ユウロン、殿…?
どこか別の
土地の方かな

憂瓏と申します

ああ、この人は
俺の兄弟子で…

そちらの方は?

ええ、
そんなところです

あーっ!?



今日は
賑やかになるぞ



アハハハハ
アハハハハ



かあちゃん
亮太が帰ってきた!

りよつ、亮太あ!?



おかえりなさい!

と?



亮太〜!

ユキ!

元気そう
よかった!

もう用は
済んだんだよね?

悪い、
今夜にはまた
帰る予定なんだ

えーっ

...





まさか亮太が帰って
きてくれるとはなあ

今日だけ
だって

この後また
戻るから

そんな急がなくても
数日くらい
ゆっくりして
いばいいだろ

もう暗いし
山に入るのは
やめとけ



ふふ、これでも
健脚でしょね

数十里程度
ならば半日で

あ———と!?!
だいぶ酔ってますね!
外の空気!吸いましょうか!

※一里=約4km



そうよ
憂瓏さんも
お疲れでしょ?







えーいや…
そりゃ…ねえ

俺は今
説教してゐるんだぞ

…なに、
もしかして
嫉妬したの



ごめんって
どうすれば
いい？

ふん
誠意が
感じられない



んふふ
いいよ

…外だぞ

憂瓏が勃たせろって
言ったんだろ？



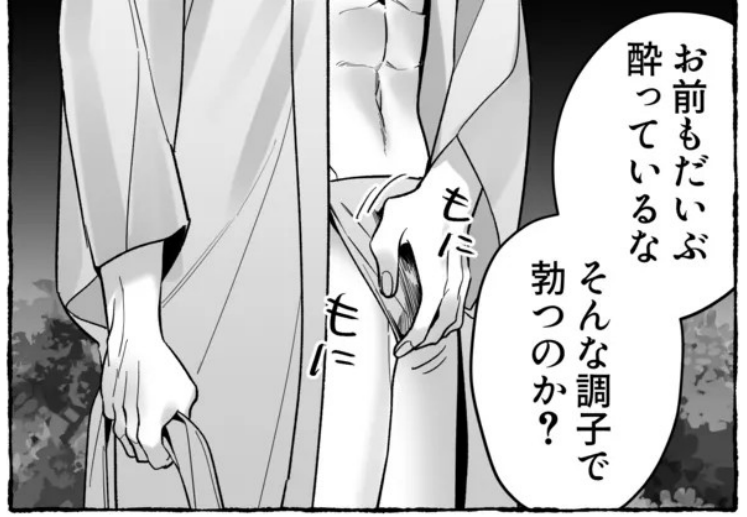
今、ここで

ちんぽを
勃たせてみせろ



憂瓏も見せてよ

そしたら
勃つかもね



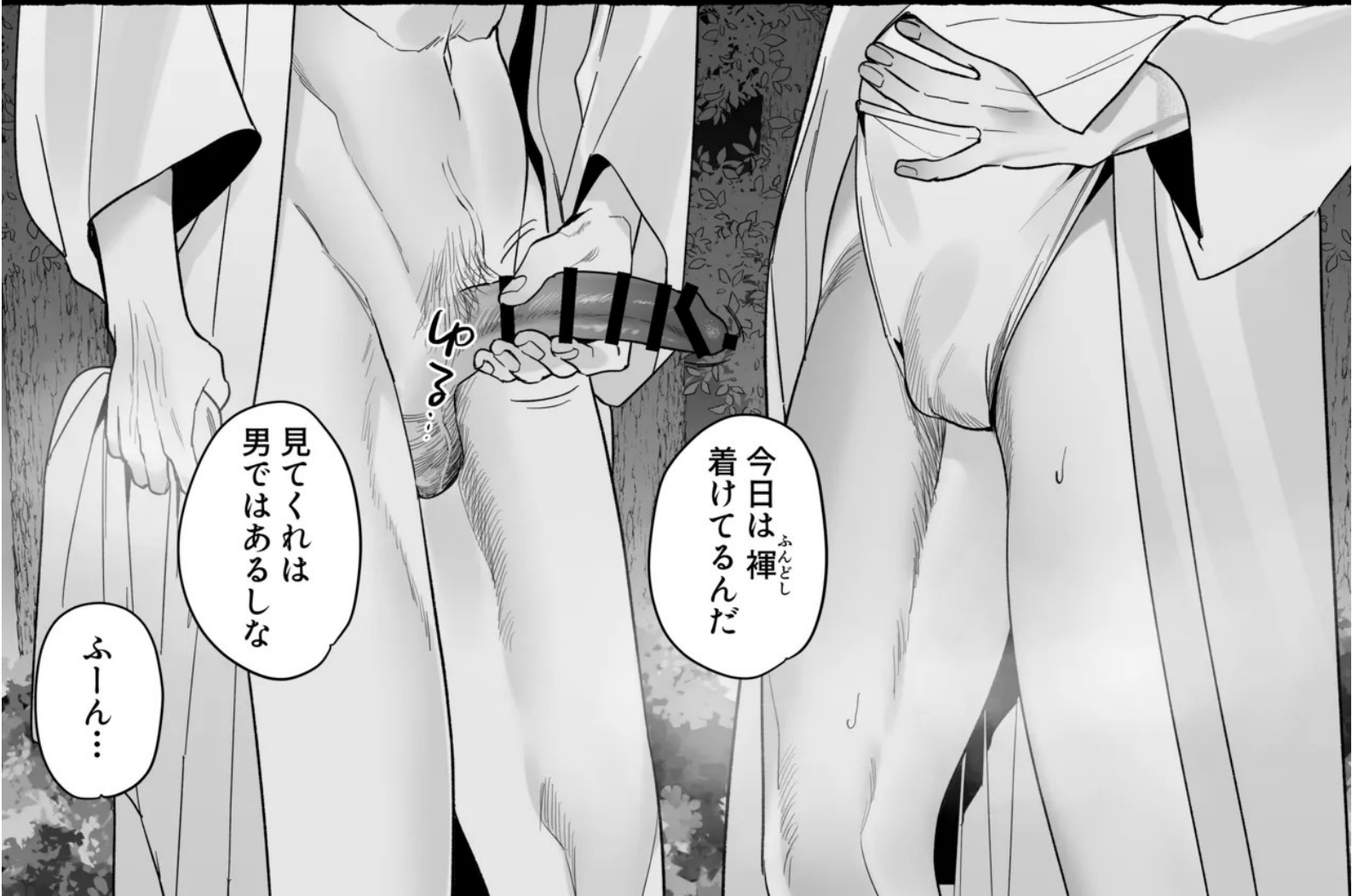
お前もだいいぶ
酔っているな

そんな調子で
勃つのか？



あー
わかんない

わかんない
から…



今日は禪ふんどし
着けてるんだ

見てくれは
男ではあるしな

ふーん…





そう
足広げて

っ……

ムキ……♡

ムキ……♡

こんな……
獣の交尾のような
格好……♡

いほか……っ



すご、
禪が張り付いて
スジが
くつきり見える

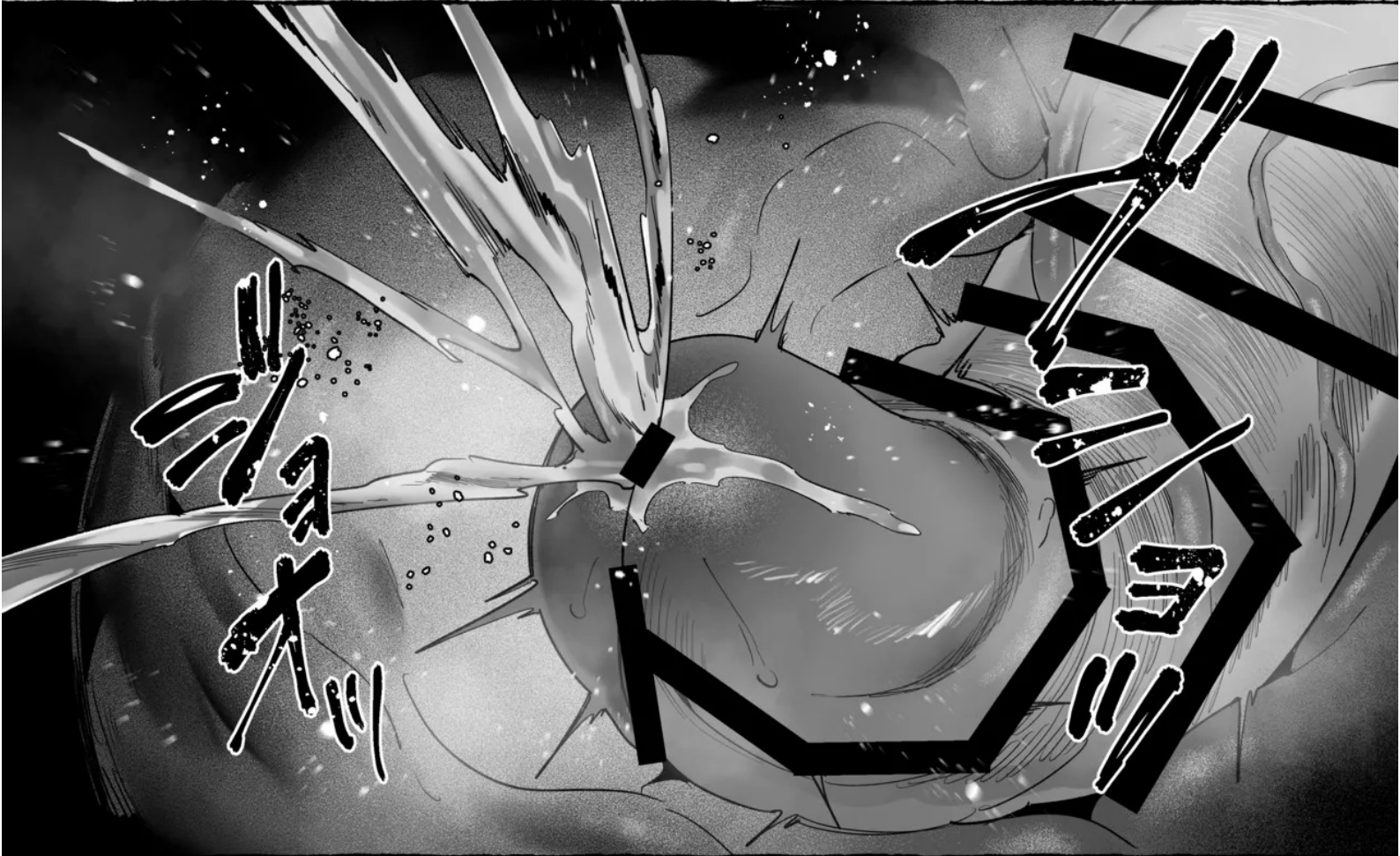
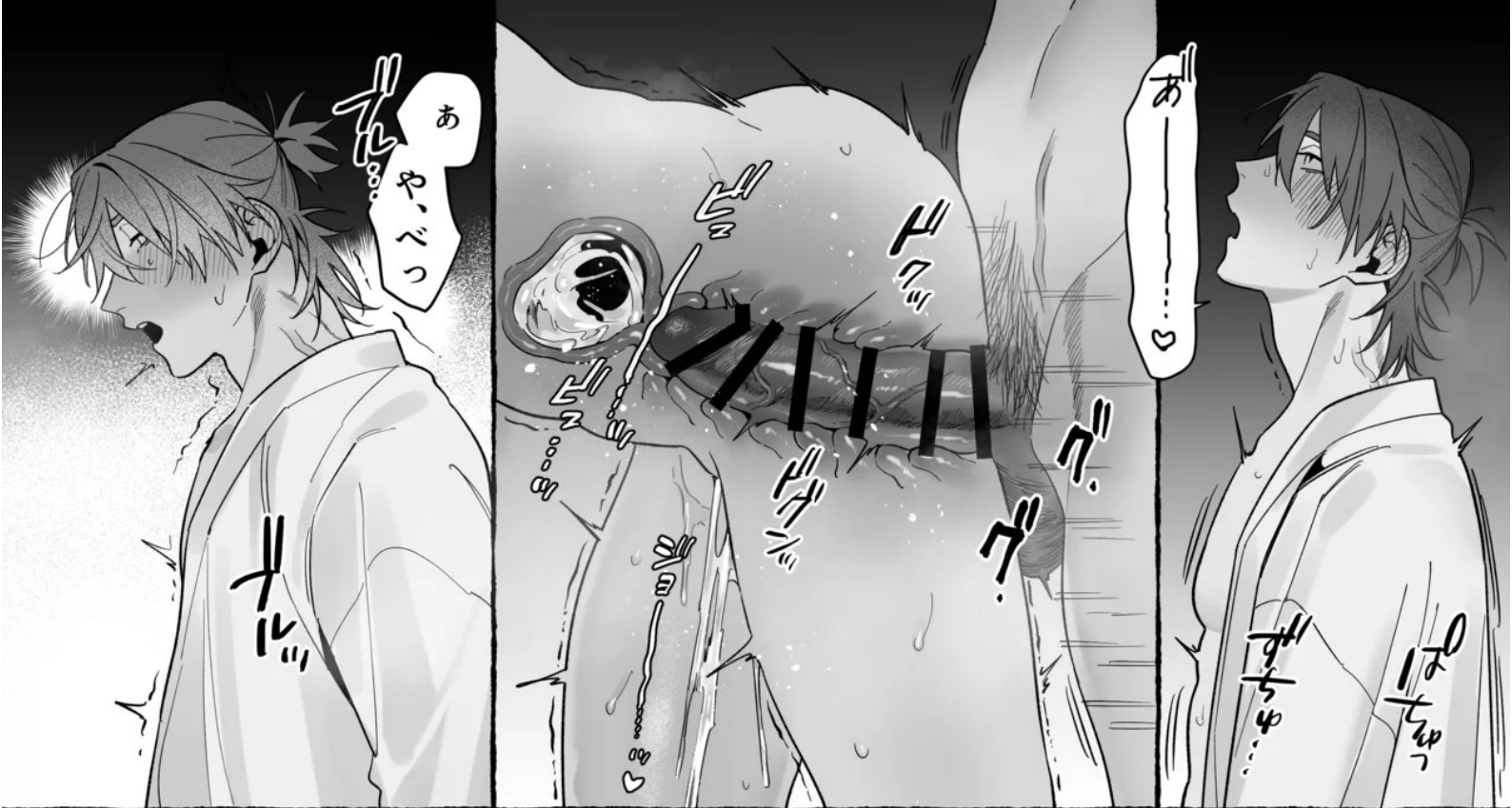
っ、いちいち
言うな！

ずっと思ってたけど……
このぷっくりした
盛りマン、
エロいよなあ

いっくっ♡

いっくっ♡









ガ
ガ

ん？

こんな時間に
水浴びなんて
風邪引いちまい
ますよ



憂
隴？

あれ、どこに…



嫌な予感が
する……



いやー
こりやまた
美丈夫が来たもんだ

酒が進むなあ

ハハハハハハ



これは
分解に時間がかかる

飲んだことのない
味だとは思ったが…



ああ、
すぐ立ち上がらない
方がいい

アンタの酒は
南蛮のとおっておきだ



荷物が無いか
見せてもらうぜ



村人をおびき出す
手間が省けた



見たところアンタは
いいところの坊ちゃん
みたいだな



カッ！
カッ！
カッ！

カッ！
カッ！
カッ！

アッ？



この程度で俺が
膝をつくとは
思わないことだな

お前たちが束になって
掛かったところで
結果は変わらない

ふん



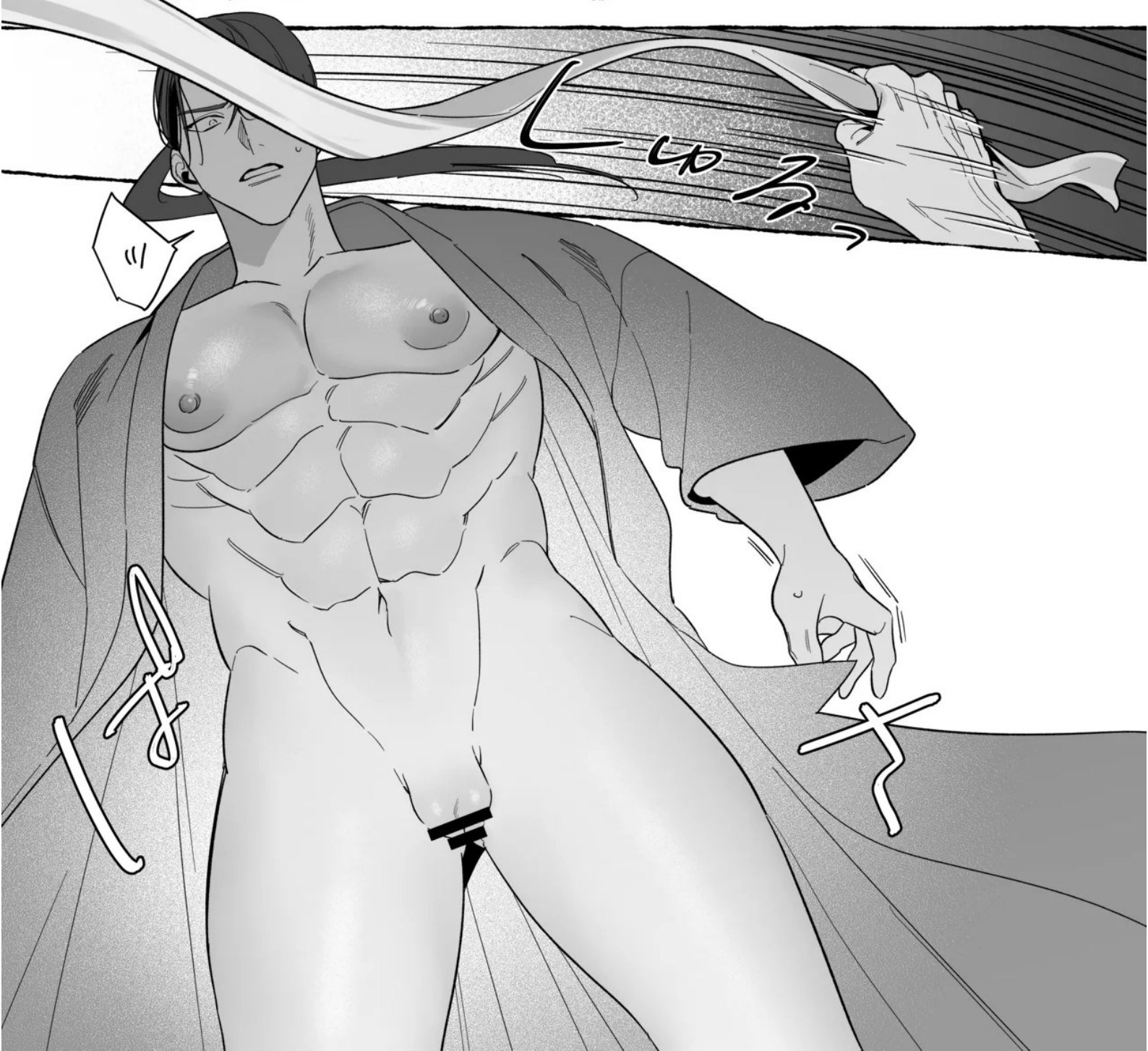
ツ
ナメやがって!!



ならば数で
押さえるまで!

勝負あり、だ



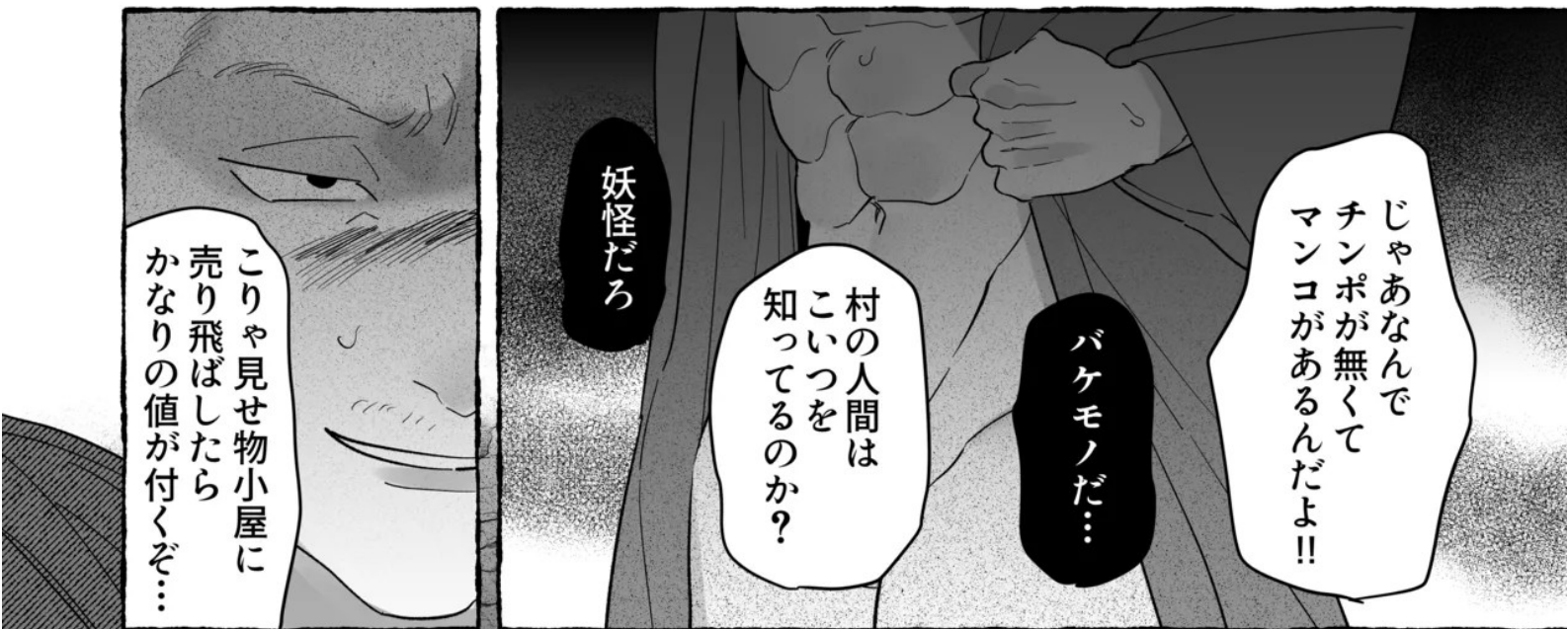




いやどう見ても男だろ!!

お、お前、女か!?

見られた…っ



じゃあなんでチンポが無くてマンコがあるんだよ!!

バケモノだ…

村の人間はこいつを知ってるのか?

妖怪だろ

こりや見せ物小屋に売り飛ばしたらかなりの値が付くぞ…



フワッ

ああ…でも…その前に…

無駄な殺生は避けたいが

俺たちでまず味見してやろう

見られた以上…



おい



な、なんだありゃあ

もしや

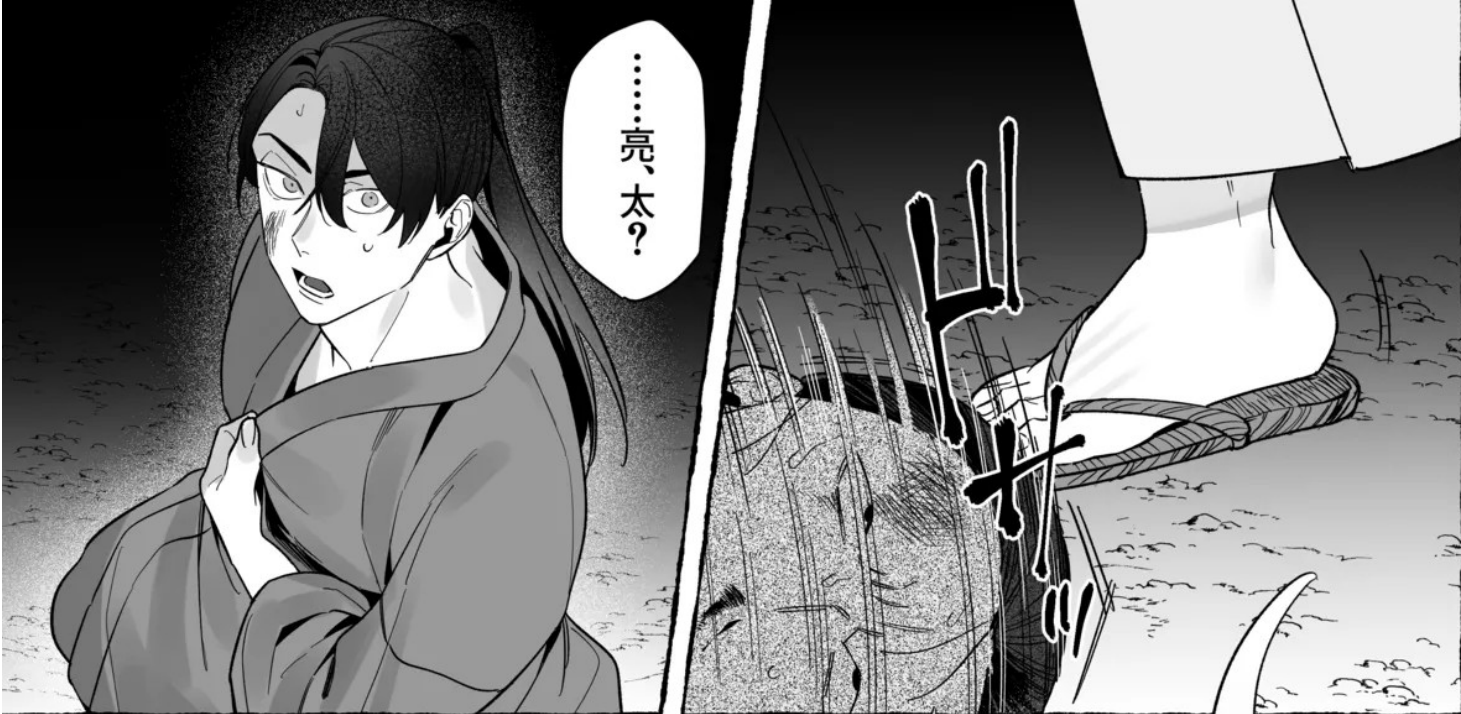
あの村の
守り神じゃ…



バツ、馬鹿野郎！
龍神なんか
本当にいるわけ、



ぐ、あ…っ？





よかった
間に合って…

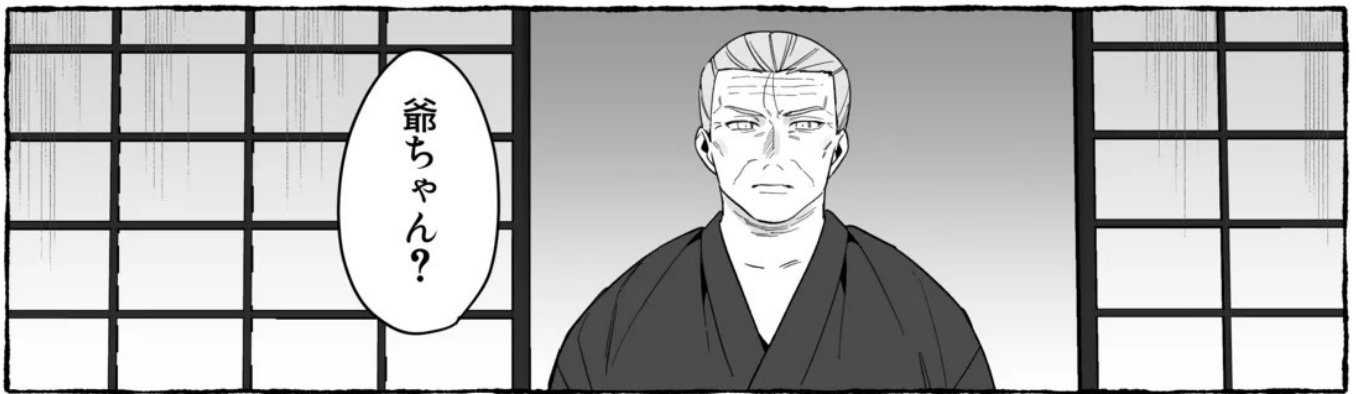


っと

クダ…



村の
守り神……



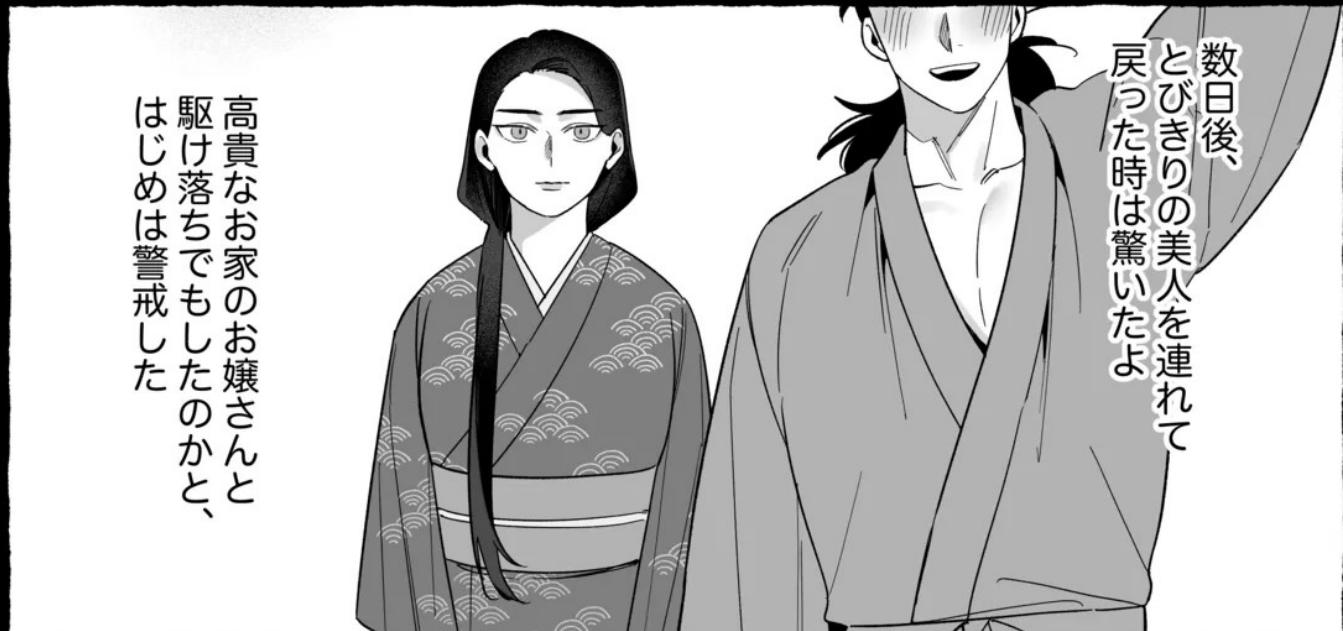
……これは
お前の親の話だ



それがあある日、しばらく
留守にすると行って
山に入ってしまった



お前の父親、凛太郎りんたろうは
この村の出身で
お前によく似て世渡りが上手く、
人望も厚いやつだった



数日後、
とびきりの美人を連れて
戻った時は驚いたよ

高貴なお家のお嬢さんと
駆け落ちでもしたのかと、
はじめは警戒した



それが亮太、お前だ



けれどこれといった
問題も無く
すぐに子供を授かった



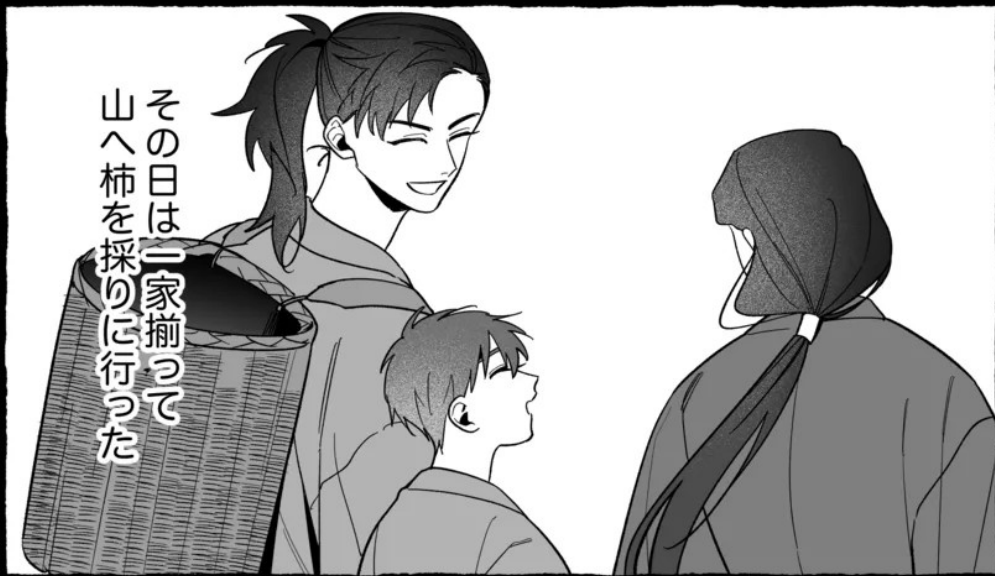
それから数年、
おそろしいくらい
この村は平和だった



というのも、
凛太郎の嫁さんの助言が
やたら的確だったんだ

まるでこの土地の地形から
今後の空模様まで知り尽くしている、
起こるべく天災への
備え方なんかもわかっていた

やがて彼女は
巫女さんのように
皆に受け入れられた



その日は一家揃って
山へ柿を採りに行った

そして亮太が
8つになった頃、
別れは突然だった



けれど戻ってきたのは
傷だらけの嫁さんと
眠る亮太だけ



俺は急いで
村の衆を集めて
二人を探しに
山へ入った

見つかったのは
数人の山賊の亡骸と、
柿が入った籠だった



俺に亮太を託して、
あの人はボロボロのまま
山に戻っていった



その晩
俺は
龍神様の夢を見た



亮太を
頼みます

そう言った声は
間違いなくお前の母親…
お竜さんの声だった



次に夢で見たのは
黄金の龍
だったからな…



それからその白い龍が
夢に出ることはなかった

おそろくお前は
あの廃神社の
元主^{あるじ}である
龍神の息子だろう

父親の方は
どうやら
普通の
人間らしいがな

なんとなくか、
全然実感がないうよ…

無理もない
俺ですらお前からは
神気の類を
感じ取れなかった

実際お前は
意図^{しんりき}して神力を
操れないしな

じゃあ俺はもう
龍には
なれないの？

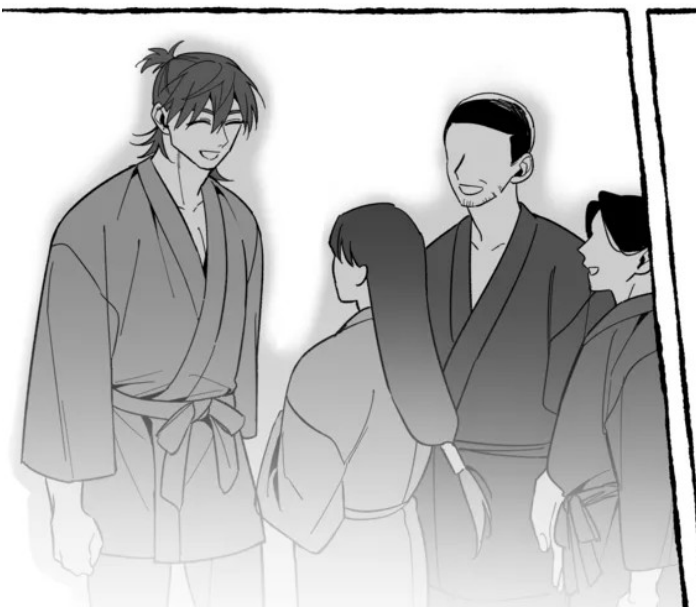
昨夜もそうだが、
一時的に
「龍のように見える」
ことはできても
龍になる力は無い

山賊を
気絶させたように、
その血が
お前を守ることは
あるだろうが…

おそろく母君は
人里に下りる時
神力をほとんど
手放したのだろうな

……
手放さなきゃ
良かったのに

……





…そうか



ガッ

っ、ちよっと！
帰るなり
どうしたんだよ

んんっ！

…昨日、
賊共に身体を見られて
ひどく不快になった

交尾は誰としても
同じだとすら
思っていたが…



お前と過ごして、
人間がうつったのかも
しれないな



…無事で良かった

憂瓏が強いのは
知ってるけどさ



ふ
そうだな

あの雑魚共に
負ける気はしなかった

でも

お前が来てくれたのは
嬉しかったぞ

外ではゆっくり
できなかつたからな

そうだ



この体勢で
するか？

あー
かー

この程度なら
問題ない

いいの？
きつくない？

うん



それに…

そろそろ
孕んでも
いい頃だ



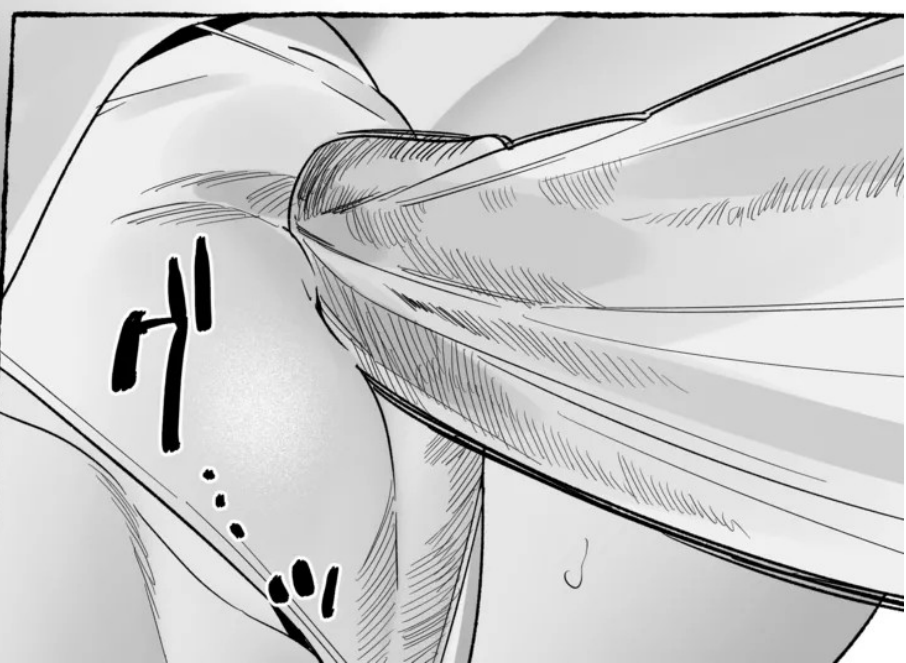
子宮に直接
出すよ



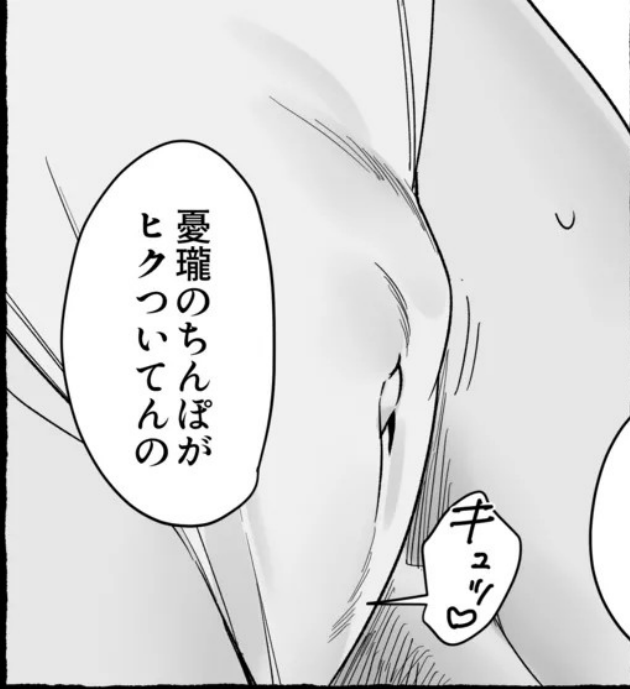
っ、わかった



♡……♡



が…



憂瓏のちんぽが
ヒクついてんの

キュッ♡



はは

布越しでも
わかるよ



あ、そっ…

布の上から…

もどかしい…♡♡♡

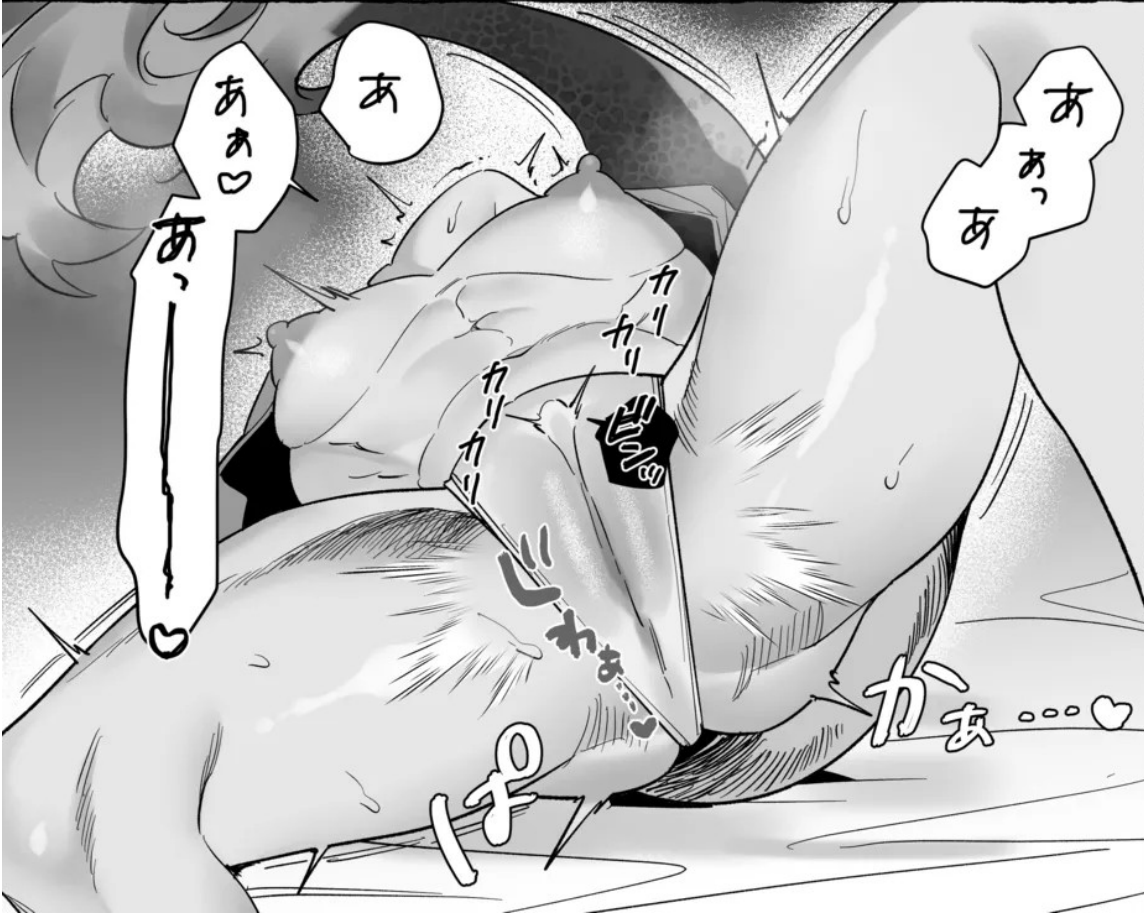


フリ…

ん



ムッ♡



あぁ♡

あ

あ♡

カリカリ♡

カリカリ♡

じゅわぁ♡

ぽん♡

かぁ…♡



カリ

カリ

カリ

カリ

カリ

カリ

裏スジのところ
引っ搔いてあげる



いくの早くなさ？

この程度
極めたうちに
入らん



でもほら
雌汁おもらし
してるよ

広げるなっ！



はっ
はっ

すっ...
すっ...



はっ

はっ

...?

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっはっ

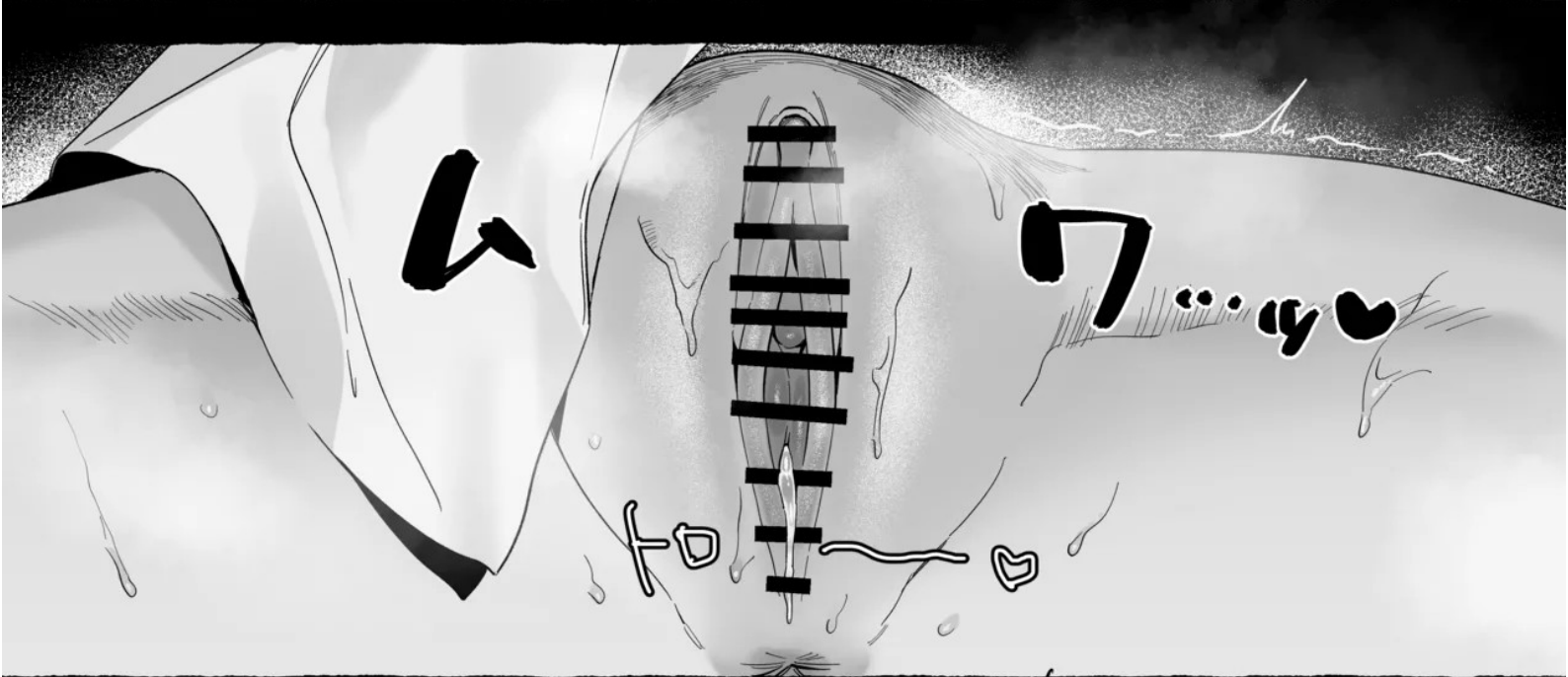
はっはっ

はっはっ



ん
憂瓏は舐められるの
好きだもんね

っ、も、もう
布は
いららない...っ



ム

ワ...♡♡

ぽっ♡



っ、も、もう

っ、も、もう
布は
いららない...っ

赤子の部屋に
出せっ

っ
おらもっと奥に



は、ねえ、
子宮下りてくるの
早くない？



っ、わかってる！
けど、



全然チンポ
入らない...っ

っ
...
...
...

ズ...
ガ...



っ
...
...
...

ズ...
ガ...
ズ...
ガ...



揺るがらぬぞい♡

赤子の部屋なの♡
旦那様ちゃんぽで
気持ちよくなってる♡♡

まんこす♡♡♡

まんこイッ…
ぐう〜……♡♡

フッフッ♡

フッフッ♡

フッフッ♡

あは、俺も♡

濃いの出るッ

孕ませるやつ
だす……ッ!!

あ♡
あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

あ……
ちゃんぽ
震えてる……♡

これっ
孕むう……♡♡

あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

あ♡
あ♡

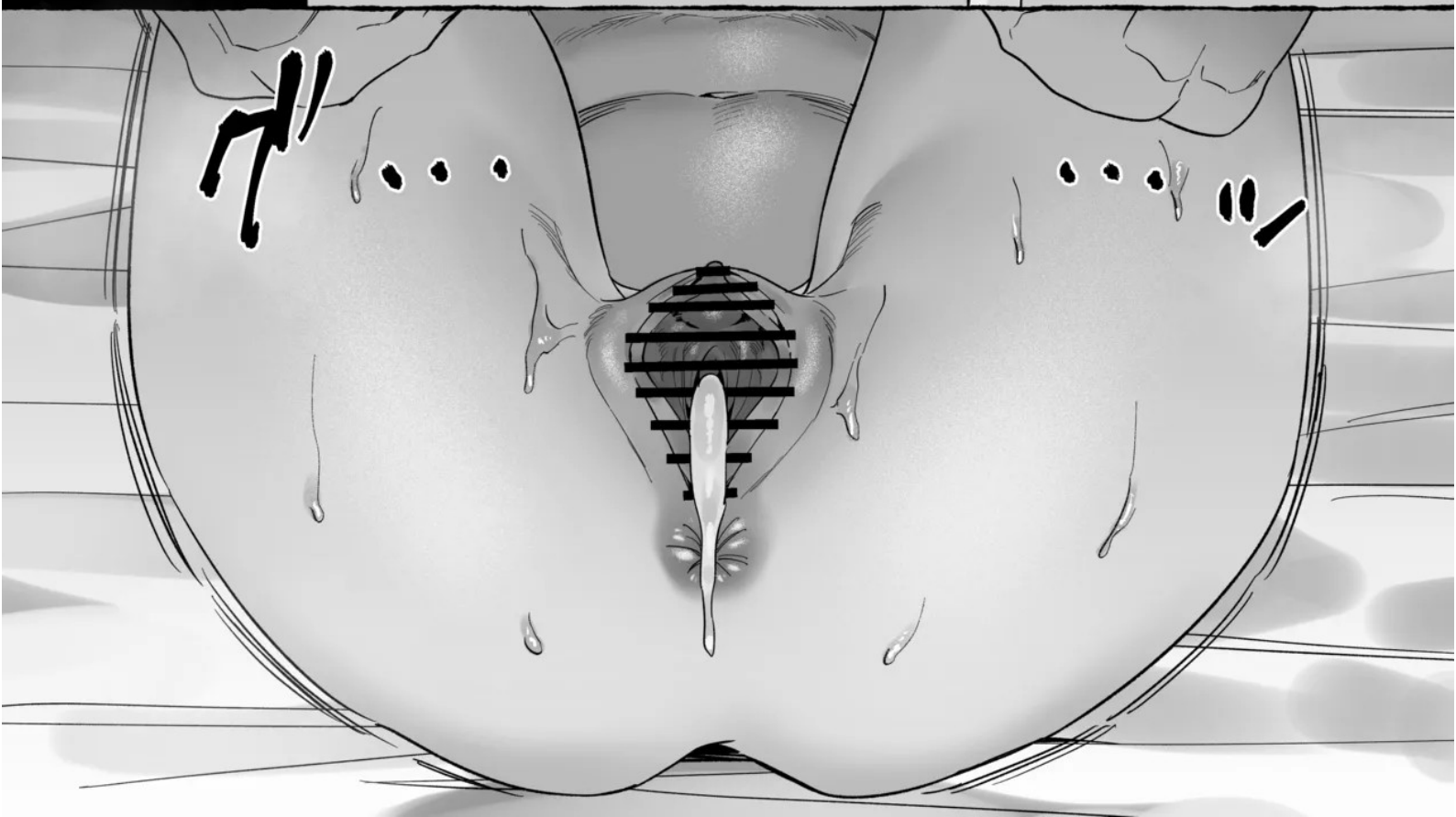
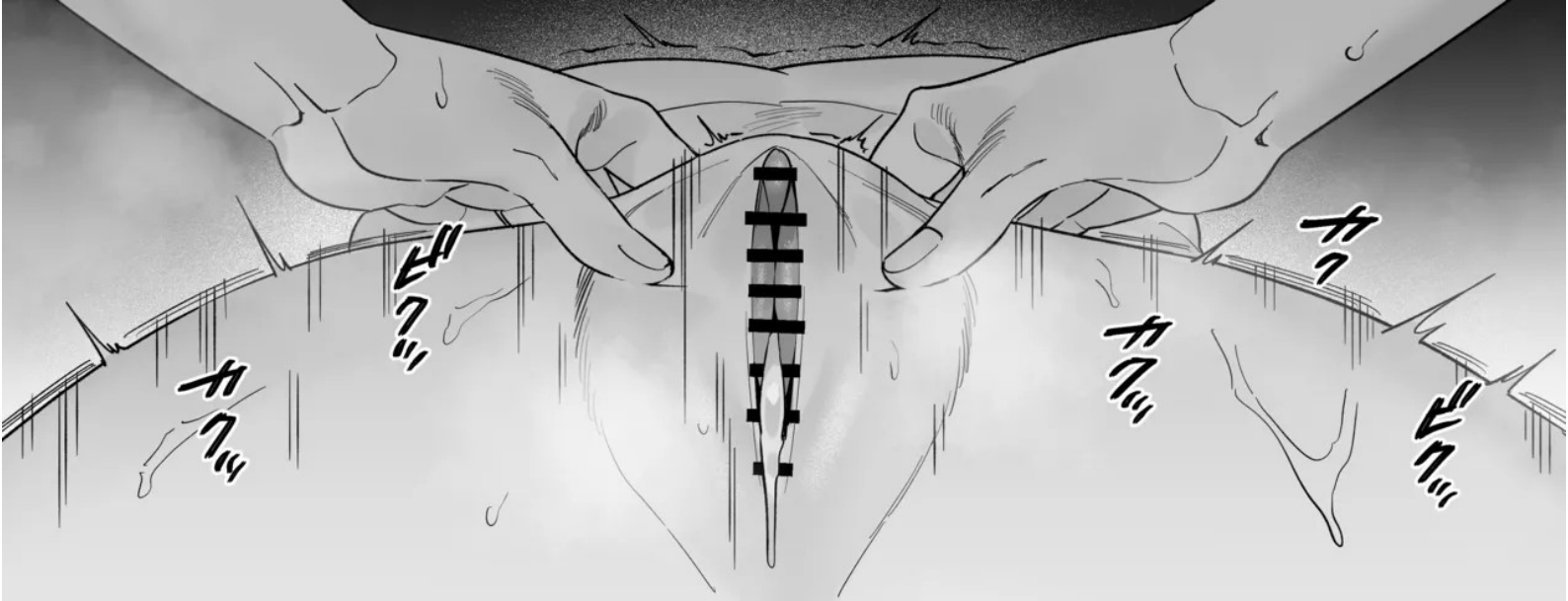
あ♡
あ♡



あ









：お前は
隠しておくには
もったいない男だ



眠い……

……？



お前と
過ごした時間が
一番楽しかった

生まれてから
数千年



あ
これ
寝たら
だめなんじゃ……



どうか、幸せに







あの子は
人間として
幸せに暮らすべきだ

ここまで読んでいただきありがとうございました。
完結しませんでした。続き描きます。
またよろしく願います。

～以下プチ設定～

・憂瓏と亮太が最初に出会った時、
憂瓏が人の姿になれた(神としての力が回復した)のは、
亮太から食べ物＝お供物を貰ったからです。

・神力＝信仰心

信者の信仰心が強ければ強いほど神として強くなる

・当作品は室町時代の日本をイメージして描いています。
憂瓏のふんどしは日本では少し後の時代のものです。